

先回、SRI の波及について、大学生たちの活動をご紹介しました。SRI は、その性格として道義的側面を重要視する団体のほか、女性と個人の投資家が多いのが特徴です。そして、どの国でも概ね女性と若者のイニシアチブによって始まり、個人投資家によって育てられ、年金基金や保険会社、投資信託などの機関投資家によって市場として確立されるという図式になっています。90 年代はじめには、SRI を政策金融として導入したオランダでは、SRI 専業の銀行、保険会社、運用会社は珍しくありません。

オランダの ASN 銀行は、預金者の 60%が女性であり、従業員の比率も同じくらいであるほか、同行における融資業務のトップは、世界銀行系の国際機関を辞職して、ASN に参加した女性であり、SRI ファンドを運用する SNS アセットマネジメントの運用トップも女性でした。やがてこれらの SRI 専業銀行は、積極的に中央銀行、大蔵省、既存の金融業界などから、人材を受け入れ新しいコンセプトを持ちながら、業務展開においては、既存の金融機関と互角に戦える陣容を整え、また活発なロビー活動により、オランダ金融界における SRI の認知度を高めてきたのです。さらに、ABP（オランダ公務員総合年金基金）、PGGM（医療関連年金）などオランダの公的年金などは、ヨーロッパの中でいち早く SRI をスタートさせましたが、投資責任者、ファンドマネージャーやアナリストが女性であることも珍しくありません。

そのオランダで、3人の女性がプライベートエクイティ投資会社「Karmijn Kapitaal」を設立し、ユニークな手法で注目を集めています。彼らの投資手法は、経営陣に占める女性比率が 25%以上の企業に投資を行うというものです。マッキンゼー・アンド・カンパニー社による 279 社を対象とした調査によれば、経営陣に占める女性比率の高い企業は男性のみの企業に比べて 41%以上リターンが上回る結果となり、また別の調査機関が Fortune500 の企業を対象として調査したところによれば、3人以上の女性が 4年間以上にわたって経営陣に在籍する企業は、男性のみの企業よりも 60%以上のリターンをあげているのです。Karmijn Kapitaal 社は、ポートフォリオに入っている各社から 25%以上のリターンをめざしており、既にいくつかの企業に投資を開始し、投資家には欧州投資銀行(EIB)参加の基金も名を連ねています。同社の経営者である Ms. Van Boxtel は、「我々は博愛や慈善といった概念でこのプライベートエクイティ投資を行っているのではなく、投資戦略としてこの手法を活用している」と言っています。

年長の裕福な女性が、女性のビジネスに投資する「ママキャッシュ」という会社もあります。

このように、投資においても経営においても女性がイニシアチブをとることに、今後の成長の可能性を見出しているオランダは、SRI の歴史を新しい形でくり返しているのではな

いでしょうか。